

看護学部看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	30	病理学
1年	33	病態治療学Ⅲ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb01				
			●							
科目名	病理学				単位認定者	齋木 由利子		試験(筆記)	85 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
						授業回数	8 回			
授業の概要	疾病の要因とその発生機序について、細胞障害と生体障害を中心に学修する。細胞障害では、細胞の萎縮、変性、肥大、壊死とアポトーシス、創傷と治癒等について学ぶ。生体障害では、循環障害、臓器不全、炎症、損傷、免疫異常、アレルギー、内分泌・代謝異常、廃用症候群、老年症候群、遺伝子異常、先天異常、腫瘍、中毒等について学修する。									
到達目標	病気が発生するメカニズムを理解する。									
学修者への期待等	単に教科書の内容を覚えるだけでなく、病気がどのようなメカニズムで発症するのかを考えながら修学し、将来の仕事に活かしてほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	病理学とは・細胞の異常、小テスト				【事前】教科書で細胞の構造を確認しておく(30分程度)					
2	循環障害、小テスト				【事前】教科書で心・血管の構造を理解する(30分程度)					
3	感染症、小テスト				【事前】教科書で病原体について理解しておく(30分程度)					
4	免疫と免疫異常、小テスト				【事前】教科書で血球細胞について理解しておく(30分程度)					
5	炎症、小テスト				【事前】教科書で炎症にかかわる細胞について理解しておく(30分程度)					
6	代謝異常・先天異常、小テスト				【事前】教科書でDNAについて理解しておく(30分程度)					
7	腫瘍、老化、小テスト				【事前】教科書で癌の特徴について理解しておく(30分程度)					
8	記述式小テスト、試験について、質問対応				【事前】7回の授業全体の復習(30分程度)					
教科書	『なるほどなっとく病理学plus』小林正伸著、南山堂									
参考文献										
備考	小テストは授業でフィードバックする。 第3回のみ、遠隔授業(オンデマンド)で実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb04				
			●							
科目名	病態治療学Ⅲ				単位認定者	湯田 健太郎		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、栄養の摂取・消化・吸収・代謝機能の障害、内部環境調節機能障害、排泄機能障害、男性生殖器の機能障害の病態と診断・治療など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 2. 上部消化管・下部消化管の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 3. 肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 4. 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 5. 内分泌系・代謝異常・体液調節の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 6. 泌尿器系・男性生殖器の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 									
学修者への期待等	範囲としては広く、覚える事項も多いですが、現場に出た時に役立つことのできる重要な分野です。よく復習しながら授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	口腔疾患、上部消化管疾患（炎症系疾患、潰瘍性疾患）				各回、配布資料を復習してください。 (30分程度)				湯田 健太郎	
2	上部消化管疾患（腫瘍）、下部消化管疾患（炎症性疾患、イレウス）								田子 竜也	
3	下部消化管疾患（腫瘍）								湯田 健太郎	
4	肝臓疾患（炎症性疾患、脂肪肝、アルコール性肝炎）								湯田 健太郎	
5	肝臓疾患（肝硬変、腫瘍）								湯田 健太郎	
6	胆道系疾患（炎症性疾患、腫瘍、胆石症）								湯田 健太郎	
7	膵臓疾患（炎症性疾患、腫瘍）								湯田 健太郎	
8	腹壁・腹膜・横隔膜の疾患（腹膜炎、横隔膜ヘルニア、吃逆）								湯田 健太郎	
9	内分泌系疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎、腫瘍）								湯田 健太郎	
10	内分泌系疾患（副甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患、腫瘍）								田子 竜也	
11	代謝異常の疾患（糖尿病）								田子 竜也	
12	体液調節の疾患（水・電解質の異常、酸塩基平衡の異常）								田子 竜也	
13	泌尿器系疾患（腫瘍、腎・尿路結石、過活動膀胱）								田子 竜也	
14	泌尿器系疾患（腎不全）								田子 竜也	
15	男性生殖器系疾患（前立腺炎、前立腺肥大、前立腺癌）								田子 竜也	
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器』南川雅子他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝』吉岡成人他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器』大東貴志他著、医学書院									
参考文献	『病気がみえる Vol.1 消化器』武藤学他監、メディックメディア 『病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌』森野勝太郎他監、メディックメディア 『病気がみえる Vol.8 腎・泌尿器』池森（上條）敦子他監、メディックメディア									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--